

# 自立活動 学習指導案

日時 平成22年11月9日(火) 13:35~13:55

児童 チャレンジ学級4名(4年1名、6年3名)

指導者 T<sub>1</sub> 松田 泰生

T<sub>2</sub> 吉本 和恵 T<sub>3</sub> 高橋 睦

題材名 「英語にちょうせん」

## 1 題材について

チャレンジ学級での指導は、①小集団活動(通称:チャレンジタイム)、②運動、③個別学習指導の3つが要素となっている。特に小集団活動にあっては、仲間と助け合うことの大切さや場に応じた言動など、対人関係の深まりや行動・感情のコントロールができるよう援助し、自分を取り巻く周囲とのコミュニケーションの方法について指導を行っている。チャレンジ学級で学ぶ児童のグループ構成は毎日異なり、児童は異学年での小集団活動を通して、仲間との関わりについて学んでいる。その中でも、比較的情緒が安定しているグループにおいて、今年度より英語活動を取り入れたチャレンジタイムを行ってきた。

英語活動を小集団活動に取り入れたことで、次のような児童の様子が見られた。英語での会話練習や動作を伴った歌などを通して、これまで遊びの場面くらいしか見られなかった異学年でのグループ内交流を深めることができ、コミュニケーションの手段として英語を受け入れている様子がうかがえた。また、意外な英単語を知っていたり、発音の模倣が上手だったりなど、これまで気づけなかった児童の特性を指導者が知ることができた。

これらの状況から、児童の対人関係の拡大や、自分の思いを相手に伝えるという点において、英語による活動が児童の自立を促すのに有効ではないかという仮説のもとに、本題材を設定した。

本題材では、主に数を表す英単語を取りあげ、「いくつあるか」について尋ねたり、応答したりする活動を組み入れた。課題の提示にあっては、パソコン教材を使用して視覚からも情報が入るようにし、児童にとって親しみやすいものとなるように考慮した。また、ゲーム的な要素も取り入れ、ルールを守って仲間とともに楽しく活動できるような場面も設定した。本題材を通して、英語に対する興味を喚起させるとともに、対人関係における適応能力を高めていきたい。

## 2 個別の実態

	対人・ことば	情緒・適応	通常の学級での様子
A・S 4年生 女子	・小集団の中では教師がやり方を具体的に示すことで内容を把握し、友達と一緒に活動することができる。 ・数分前に聞いた内容でも繰り返し質問することが時々ある。	・本人の中で気になっていることがある時には、人が話している途中でも質問したり、手が動いたりしてしまうことがある。その際に、個別に声をかけると話を聞けることが多い。	・どうすればよいかわからなくなった時、周囲に伝えるよう指導したところ、教師に対しては自分から尋ねることが増えてきた。しかし、友達同士の中では、本人が聞く前に周囲の子が教えてくれたり、やってくれたりすることが多い。
H・T 6年生 男子	・教師や友達と協力して活動することができる。 ・発音が不明瞭になることがあり、正しく言えない言葉もある。	・集中できる時間が短く、学習中姿勢がくずれることが多い。その都度、注意を促す声かけが必要である。 ・教師がやり方を明示することで、苦手な課題にも最後まであきらめずに取り組むことができる。	・友達との関係は良好で、誰とでも仲良くすることができる。 ・一斉指導を正しく理解することが難しく、場や状況に合わない言動をすることがある。

Y・H 6年生 女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた相手には、自分からあいさつをしたりお礼を言ったりすることが増えてきた。</li> <li>・思ったことや気付いたことを場や状況を考えずに、一方的に相手に伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いと違う状況になった時、表情を変えたり黙ったりすることがある。</li> <li>・初めてのことや苦手な課題にも、モデルを見せ見通しをもたせることで、意欲的に取り組もうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いやり方が優先し、教師のアドバイスを素直に受け入れられないことがある。</li> <li>・必要な場面では、クラスの友達に自分から声をかけることができるようになってきた。</li> </ul>
S・W 6年生 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気心の知れた相手には自分の好きなお笑いネタを饒舌に話することができる。</li> <li>・相手からの誘いを受け入れることはできるが、自分から相手を誘うことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急に質問されたり、自分の予想外の状況になったりすると、黙ってしまうことがある。</li> <li>・気分が乗らないときには、ふざけたり、活動が雑になったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から手を挙げて、徐々に自分の意見が言えるようになってきた。</li> <li>・苦手なことでも逃げないで、頑張りが見られるようになってきている。</li> </ul>

### 3 題材の目標

- ・話し手の方を向きながら話を聞き、その内容について理解することができる。  
(対人・ことば)
- ・自分の思いを英語で表現することができる。  
(対人・ことば)
- ・決められたルールを守って、ゲームを行うことができる。  
(適応)

### 4 指導計画（3時間扱い）

- ①『数字を英語で言ってみよう』
  - ・1～12までの数の言い方を理解し、カードを見ながら発表する。
  - ・「SEVEN STEPS」を動作に気をつけながら歌う。
- ②『「いくつある？」を英語で言ってみよう』（本時）
  - ・ビデオに出てくるものの色や形に注意しながら英語を聞く。
  - ・ビデオを見ながら、「いくつある？」の表現を知る。
  - ・決められたルールに沿って、ゲームを行う。
- ③『相手の持っているものがいくつなのか、英語で会話してみよう』
  - ・身の回りのものを使いながら、持っているものの数について尋ねる会話をする。
  - ・決められたルールを守って、ゲームを行うことができる。

### 5 本時の目標

- ①話し手の方を向き、注意をしながら話を聞くことができる。  
(対人・ことば)
- ②「いくつある？」の表現を言葉に出して発表することができる。  
(対人・ことば)
- ③決められたルールを守って、ゲームを行うことができる。  
(適応)

#### \*個別の指導目標

A・S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の方を向き、集中して話を聞くことができる。</li> <li>・わからないことがあったら担当教師と相談し、自分の考えを発表することができる。</li> </ul>
H・T	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の発音をよく聞いて、まねして言うことができる。</li> <li>・集中して話を聞き、ルールを理解してゲームをすることができる。</li> </ul>
Y・H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示やアドバイスを受け入れながら、自分の思いを発表することができる。</li> <li>・決められたルールを守って、仲間とともにゲームをすることができる。</li> </ul>
S・W	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間に聞こえる声で、発表することができる。</li> <li>・決められたルールを守って、仲間とともにゲームをすることができる。</li> </ul>

## 6 本時の展開

	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点（支援）		
		T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>	T <sub>3</sub>
出 会 う	<p>始まりのあいさつをする。 ○これまでの学習内容について、 振り返る。 ○seven steps</p> <p>○学習課題を確かめる。 <b>「いくつある？」を英語で言っ てみよう</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～12までの数を復習する。</li> <li>・ 動作をはっきりしながら歌うように促す。</li> <li>・ 本時の課題を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T<sub>1</sub>の話を集中して聞くように、声かけをする。</li> </ul>	
み つ け る ・ か か わ る	<p>○DVDに出てくる単語を確認する。</p> <p>○DVDを見て、どのようなことを言っているのか、考える。</p> <p>○「いくつある？」の表現を繰り返し練習する。</p> <p>○習った言葉を使いながらカードゲームをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ circle、triangleなどの単語を確認する。</li> <li>・ 聞き取れない時には、再度該当部分を提示する。</li> <li>・ わくわく英語タイム」（光村図書）を使用する。</li> <li>・ How many～?の言い方とその応答について確認する。</li> <li>・ 単数・複数については、深く取り扱わない。</li> <li>・ ルールをよく聞き、順番を守って楽しくゲームができるように支援する。</li> <li>①はっきり聞き取れる声で尋ねる。</li> <li>②尋ねられたカードの絵の個数を言う。</li> <li>③引いたカードの絵が、自分のもっているシートの中にあったら、重ねて置く。</li> <li>④置いたカードが横に1列揃ったら「ビンゴ」と言って完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ T<sub>1</sub>の話を聞くように、声かけをする。</li> <li>・ 考えることが難しい児童には教師がアドバイスする。</li> <li>・ 発表することが難しい児童には言葉を補う。</li> <li>・ ルールを守ってゲームができている時には、ほめるようにする。</li> <li>・ なかなかカードが揃わない児童には、あきらめずに取り組むよう、励ます。</li> </ul>	
ひ ろ げ る	<p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>○終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんばったことや楽しかったことについて発表させる。</li> <li>・ 次時の活動を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の思いが表現できない場合には援助する。</li> </ul>	

## 7 本時の評価

- |                                 |          |
|---------------------------------|----------|
| ①話し手の方を向き、注意をしながら話を聞くことができたか。   | (対人・ことば) |
| ②「いくつある？」の表現を言葉に出して発表することができたか。 | (対人・ことば) |
| ③決められたルールを守って、ゲームを行うことができたか。    | (適応)     |